



会長のブログ

私は、最新のブログで、戦略的プログラムの活動を支援するために加盟学会からのインプットを必要としていると述べました。それに対する応答はとても感動的でした。おかげで、今私たちは、想定していた重要な作業を推し進めることができます。

広報のタスクグループには特筆すべき力強さがあります。グループメンバーと一緒にこの重要なプログラムを開発している吉田浩子さんと一緒に仕事をすることが楽しみです。また、線源セキュリティTGには非常に強い関心が寄せられているところ、Tony PetersとKlaus Henrichsはこのトピックに係る取組みを前進させてくれるでしょう。若手人材ネットワークはまだ生まれて間もない状況にありますが、次の世代の意見、ニーズ、経験を分かち合うエキサイティングなプログラムを構築してくれることでしょう。

Berard Le Guenが医療分野の発展を先導し、Pete Coleが高度な教育・研究・研修(HERT)に関する新たなTGをリードするなか、放射線防護文化(人によってはより広い安全文化経験とよりよく調和するとして「放射線安全文化」という言い方を好みますが)の提唱が力強く継続されています。加盟学会の良いアイデアを多くの分野で共有するための幅広いプログラムが、Eduardo Gallegoのリードのもと、加盟学会参画開発委員会を通じて継続されます。

現在これらプログラムはいずれもハイスピードで進められていますが、こうした取り組みに関心をお持ちの方はもちろん参加できますので早めにお知らせください。

最後に、次の会議の組織体制が整えられていくのを見るのは喜ばしいです。あなたへのリマインドとして、また今後あなたが個人的な行動計画を立てる上での一助として、これからのイベントを以下に記します：

- ・ラテンアメリカ地域会議(ハバナ、キューバ)：2018年4月23～27日 [www.irpacuba.com]
- ・アジア・オセアニア地域大会(メルボルン、オーストラリア)：2018年5月20～24日
- ・欧州地域大会(ハーグ、オランダ)：2018年6月4～8日 [irpa2018europe.com]
- ・アフリカ地域会議(チュニス、チュニジア)：2018年9月6～9日
- ・IRPA15国際会議(ソウル、韓国)：2020年5月11～15日

これらのイベントでより多くの方々と出会うことを楽しみにしています。

Roger Coates OBE
IRPA議長

この「IRPA会報」の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

IRPA出版委員会

委員長 Christopher Clement • 副委員長 Bernard LeGuen • 会報編集担当 Chunsheng Li & Ali Shoushtarian • 加盟学会連絡担当 Adelene Gaw • ウェブサイト管理運営担当 Andy Karam & Chris Malcolmson • ソーシャルメディア対応担当 Sven Nagels & Chris Malcolmson • メディア情報収集担当 Sven Nagels, Young-Khi Lim, Takatoshi Hattori • プロシーディングアドバイザー Haruyuki Ogino



IRPA戦略プログラム(2016～2020年)

(Christopher Clement, IRPA出版部長)

IRPAは放射線防護(RP)の専門家の国際的な声となっています。当該プログラムは、2008～2009年頃に開発された最初のバージョンと比較して、簡素化され、よりの絞ったビジョンステートメントです。そこで明記していることは、放射線防護文化の強化と世界規模での実践において、すべての利害関係者によりRP専門家の見解を代表する国際組織として認識されるという我々の願望に沿って、大きな進展がなされたということです。

最近公表された「IRPA戦略計画(2016～2020年)」は、2020年にソウルで開催されるIRPA15国際会議までの今後4年間に、今期のIRPAの理事会(EC)がIRPAをどう発展させていくかという道筋を明示しています。私たちは、IRPAのビジョンが、我々と利害関係者がIRPAをどう見るべきかについて重要なブレークスルーを表していると信じます。そのビジョンを実現しようとすることは、今後のすべての活動において支配的な推進力となるはずで

このプログラムは、2016年にケープタウンで開催されたIRPA14国際会議中の加盟学会フォーラム(ASF)での議論、同会議での50周年記念ポスターに掲載された加盟学会(AS)の見解と優先事項、IRPA-ASアンケートの試行で示されたASの見解を反映しています。重要な要素は、前EC期間に開発された戦略との継続性を確保することですが、どれを優先するかを再度強調することも必要です。

私たちの戦略的優先事項は、4つの見出しでグループ化されています。

- 現実的な履行へのインパクトに重点を置きつつ、他の国際機関や専門機関との防護システムの開発に係る取組みを通じた、RP専門職の国際的な声としての役割を促進する。
- 優れた実践力と高い基準のプロフェッショナリズムを開発し、向上し、共有することにより、加盟学会のニーズをサポートする。
- RP専門家の教育と訓練を支援する。
- IRPAのガバナンスと加盟学会との連携を強化する。

上記の優先事項は、当期のIRPAのプログラムの核として示されている重要なテーマを提供します。また、これらの戦略的な優先事項には、それぞれに多くの作業の流れが含まれています。





IRPA15会議の準備状況

(Wolfgang Weiss, IRPA15国際会議プログラム委員会委員長)



IRPA15国際会議は2020年5月11～15日にソウルで開かれます。IRPA15の「放射線防護文化と科学の橋渡し－公衆の共感を広げる」というテーマは、専門家だけでなく一般の人々との間でも、放射線防護文化と科学の相関を議論・強化し、放射線防護に関わる様々な科学的知識や経験を共有する機会を提供する上での、IRPA15組織委員会の強力なコミットメントを示しています。

2017年4月、組織委員会と国際会議プログラム委員会(ICPC)の中核メンバーの合同会議で、科学的プログラムの概要と内容が議論されました。提案されている構造としては、口頭とポスターによる研究発表、国際組織とのジョイントセッション、専門家や一般の人とのディスカッションセッション、そしてプログラムの実行を若手のプロフェッショナルに託そうとする試みがあります。

IRPA15の科学プログラムのドラフトは、2018年前半にできあがる予定です。IRPA15の公式ウェブサイトは、2017年12月に会議のファーストアナウンスメントを出す少し前に公開される予定です。

リーフレット(irpa.net/docs/IRPA_15)では、現在の計画と現地でのアレンジメントに関するより詳しい情報が提供されます。



オランダ放射線防護学会(NVS)

(Bert Gerritsen, NVS 事務官)

オランダ放射線防護学会(NVS)は、医療における放射線防護の知識を深めるための学会として、1960年に設立されました。今では、放射線防護の専門家のための学会として認識されています。800名の会員のバックグラウンドは、非常に多岐にわたります。40%は医療、30%は産業、30%は教育/原子力/行政関係です。会員の50%以上が、職業上の放射線防護に従事しています。

NVSの目的は、学術的な会議、テーマごとのグループ、学術雑誌(年3巻)、リフレッシャーコース、そしてウェブサイトを通して、会員の専門性を高めることを促進することです。放射線防護の若い専門家を奨励するため、IPRA会議に参加するために若い専門家を援助するThe Joh Aten Grantを与えています。

NVSは、国および国際的なスケールで、お互いに学ぶための方法を会員に提供することが重要であると認識しています。それ故、ワークショップ委員会や会議などの、国、欧州および国際的活動に会員が関与することを促進しています。

それに加え、NVSは、規制やベストプラクティスの進展のような放射線防護に関する事項では、政府にとって主要なコンサルティングパートナーになっています。

NVSは、アムステルダム(1975年)とユトレヒト(2003年)における地域会議を開催しました。今度、再び皆さんをお迎えできることを光栄に思います。2018年6月4日から8日にオランダのハーグで開催される、「放射線防護における持続性の促進」をテーマとした第5回欧州IPRA会議への参加に、皆様をお招きします。

会議の5日間のプログラムは、出展者と交流する豊富な機会と同様に、放射線防護におけるすべての関連する科学的および実用的なトピックスに関する、総会、パラレルセッション、ポスターセッション全てを提供いたします。

詳細、登録、抄録提出については、www.IRPA2018europe.comをお訪ね下さい。





会報翻訳への謝辞

(M.A.M. Gomaa, IRPA エジプト会長)

IRPAエジプト会長およびアフリカ中東国際放射線物理学会副会長として、13のIRPA会報全てのアラビア語翻訳における大変な作業に対し、IRPA会報翻訳者の一人であるDr. Safwar Salamaに感謝致します。

Dr. Salamaは、評価の高い雑誌に多くの科学論文を有する、原子力安全と放射線防護の分野における研究者です。彼は、RPF-ETRR2-EAEAの放射線防護の長です。RPFは、中東における最大の放射性同位元素製造施設です。彼は、Mo-99、Tc-99m、そしてI-131といった、最も重要な医療用放射性同位元素を継続して製造する間、施設のスタッフの安全を確実にするために最善を尽くしています。

Dr. Salamaは、IRPAエジプト、エジプトのIRPA参加組織のメンバーです。彼は、エジプト原子核科学応用学会 (ESNSA-<http://esnsa-eg.com/>)の理事です。専門会議の開催で活躍しました。

彼の学位論文は、原石をととも美しく高価なものに変えるため、中性子とガンマ線を宝石の原石に照射することを扱ったものです。彼の論文は、処理された原石中の残存放射能についての詳細な研究を提供しています。それは、IAEAのウェブサイトに掲載されました。

Dr. Salamaは、ICRP 111、ICRP 113、ICRP 117、ICRP 125といった、いくつかのICRP Publicationsをアラビア語に翻訳する時間をとってくださいました。

